

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月4日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 よみうりランド

コード番号 9671 URL <http://www.yomiuriland.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 関根 達雄

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 経理部担当

(氏名) 小林 利光

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日

TEL 044-966-1134

平成21年12月2日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	7,493	0.7	1,339	△1.7	1,376	△4.1	761	△8.2
21年3月期第2四半期	7,438	—	1,362	—	1,435	—	829	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	9.52	—
21年3月期第2四半期	10.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
22年3月期第2四半期	53,097	—	17,416	—	32.8	—	217.78	
21年3月期	50,152	—	15,649	—	31.2	—	195.57	

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 17,416百万円 21年3月期 15,641百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
22年3月期	—	2.50	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,366	2.3	1,741	△4.0	1,775	△7.9	1,026	17.9	12.83

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他 をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	83,522,024株	21年3月期	83,522,024株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	3,548,759株	21年3月期	3,544,962株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	79,974,825株	21年3月期第2四半期	80,993,405株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は経済情勢や天候等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融市場の混乱による景気後退局面からの回復の兆しがようやく見え始めたものの、企業収益の悪化や雇用不安による個人消費の低迷などにより、引き続き厳しい状況で推移しております。

当社グループの関連する業界におきましても、個人消費の低迷に加えて、新型インフルエンザの影響を受けるなど、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社は9月に創立60周年を迎えました。この節目にあたり、遊園地での「大秋祭り」をはじめ各部門で記念イベントを実施し、集客を図りました。また、京王よみうりランド駅南通路「よみうりV通り」の開通、読売巨人軍の新室内練習場の竣工など所有地の有効活用を推進しました。

公営競技部門の川崎競馬は、6月の本場開催より世界最大の大型映像装置「川崎ドリームビジョン」の運用が開始され、迫力あるレース映像や多彩な情報が提供されるようになりました。また、7月に行われた「スパーキングレディカップ」の投票券売上高は当該レースの新記録となるなどの盛り上がりを見せました。しかしながら、本場開催日数が前年同期比で2日減の32日だったことに加え、一人当たりの購買金額が落ち込んだことなどもあり、投票券総売上高は減少しました。船橋競馬の本場開催日数は、前年同期と同じく25日でした。ゴールデンウィークに行われたビッグレース「かしわ記念」の投票券売上高が船橋競馬の1レース売上記録となるなどの活況を呈しました。また、当社が運営をしている特別観覧席では、様々なイベントを実施しファンサービスに努めました。その結果、入場者数は前年同期並みを確保しましたが、一人当たりの購買金額が落ち込んだことなどにより、投票券総売上高は減少しました。船橋オートレースは、「よみうりランドカップ」開催において、当社創立60周年記念イベントを実施したことにより好評を博しました。また、本場開催日数が前年同期比で4日増の39日だったことなどもあり、一人当たりの購買金額は落ち込んだものの、投票券総売上高は増加しました。昨年12月にオープンした競輪場外車券売場「サテライト船橋」での発売は177日実施されました。ナイターの発売に伴い、一人当たりの購買金額は堅調に推移しました。特に、有料席の利用者が増加したこともあり、投票券売上高も順調に推移しました。

ゴルフ部門の東京よみうりカントリークラブは、報知アマゴルフ選手権の誘致や自主コンペの開催など積極的な営業展開を図ったものの、ゲスト利用が落ち込んだことなどにより、入場者は減少しました。よみうりゴルフ倶楽部は、9月のシルバーウィークに新規の女子プロアマ大会を開催するなど各種コンペを実施し顧客サービスに努めたものの、経済不況の影響により法人利用が低迷し、入場者は減少しました。静岡よみうりカントリークラブは、ワンオンチャレンジなど各種イベントやコンペでのサービス強化により集客に努めた結果、入場者は微増となりました。千葉よみうりカントリークラブは、乗用カートにコースナビゲーションシステムを導入し、顧客サービスの向上に努めるとともに、プレー優待券などが当たるスクラッチカードなどの企画を実施した結果、アクアラインの料金値下げにより東京・神奈川方面からの来場が増えたことなどもあり、入場者は増加しました。

遊園地部門の遊園地では、ジェットコースターやお化け屋敷での夏のイベント、9月のシルバーウィークに実施した当社創立60周年記念イベントなどが集客に大きく寄与し、新型インフルエンザの影響による団体客のキャンセルや、ゴールデンウィークの天候不順はあったものの、入園者は増加しました。プールWA Iは、おもちゃのアヒルを用いたレース大会、シンクロ、音楽イベントなど、絶えずイベントを実施し、リピーターの獲得と顧客満足度の向上を図りました。また、冷夏対策として、お盆明けか

ら、14時以降の入場料を半額にするキャンペーンを実施するなど集客に努めましたが、営業期間全体を通して冷夏となったことなどにより、入場者は減少しました。温浴施設「よみうりランド丘の湯」は、回数券の販売促進やホテル観賞会など各種イベントの実施により、前年同期並みの入場者を確保しました。ゴルフガーデン（練習場）は、オートティーアップなどのハード面と各種イベントやキャンペーンなどのソフト面が評価され、入場者は引き続き増加しました。

販売部門は、遊園地部門が入園者増に伴い増収となったものの、入場者の減少したその他の施設では低調な結果となりました。

以上の結果、総合レジャー事業の売上高は、64億9千3百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

また、不動産事業の売上高は、販売用宅地の分譲が増加したことに伴い、7億5千1百万円（前年同期比1.8%増）となり、建設事業の売上高は、工事の受注は増加したものの、その他の部門が低調だったことにより、7億3千9百万円（前年同期比0.7%減）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、74億9千3百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益は13億3千9百万円（同1.7%減）、経常利益は13億7千6百万円（同4.1%減）、四半期純利益は、固定資産除却損の増加などにより、7億6千1百万円（同8.2%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ29億4千4百万円増加し、530億9千7百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が5億9百万円減少したものの、現金及び預金が11億9千4百万円増加したことや、保有株式の時価評価額の増加等により投資有価証券が20億4千2百万円増加したことが主な要因であります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べ11億7千7百万円増加し、356億8千1百万円となりました。これは、返済に伴い長期借入金が5億4千7百万円減少したものの、京王よみうりランド駅南斜面地通路及び巨人軍新室内練習場の完成により発生した未払金のため流動負債の「その他」が9億9千2百万円増加したことや、保有株式の時価評価額の増加等により繰延税金負債が8億3千7百万円増加したことが主な要因であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べ17億6千7百万円増加し、174億1千6百万円となりました。これは、四半期純利益7億6千1百万円に加え、その他有価証券評価差額金が12億1千9百万円増加したことが主な要因であります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の31.2%から32.8%となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績がおおむね計画通りに推移しており、平成21年5月13日発表の数値から変更はございません。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第2四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

この変更による損益への影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,284,474	4,089,982
受取手形及び売掛金	773,952	1,283,806
たな卸資産	319,738	348,830
繰延税金資産	167,221	152,596
その他	112,428	312,236
貸倒引当金	△417	△1,009
流動資産合計	6,657,398	6,186,442
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,955,645	17,202,543
土地	17,705,373	17,493,794
建設仮勘定	124,034	1,639,630
その他(純額)	917,902	845,388
有形固定資産合計	37,702,956	37,181,357
無形固定資産		
その他	81,777	78,262
無形固定資産合計	81,777	78,262
投資その他の資産		
投資有価証券	7,904,217	5,861,265
繰延税金資産	544,562	546,672
その他	206,726	298,870
投資その他の資産合計	8,655,506	6,706,807
固定資産合計	46,440,240	43,966,427
資産合計	53,097,638	50,152,869
負債の部		
流動負債		
営業未払金	273,413	397,459
短期借入金	3,100,000	3,100,000
1年内返済予定の長期借入金	1,095,200	1,095,200
未払法人税等	517,443	411,651
賞与引当金	114,798	119,100
その他	2,333,501	1,340,787
流動負債合計	7,434,356	6,464,198
固定負債		
長期借入金	2,498,300	3,045,900
繰延税金負債	1,081,877	244,062
退職給付引当金	610,093	608,797
役員退職慰労引当金	116,069	106,520
長期預り金	23,901,526	24,027,525
その他	39,208	6,740
固定負債合計	28,247,075	28,039,547
負債合計	35,681,431	34,503,745

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,053,030	6,053,030
資本剰余金	4,730,676	4,730,860
利益剰余金	6,653,988	6,097,844
自己株式	△1,308,282	△1,307,361
株主資本合計	16,129,413	15,574,374
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,286,793	67,051
評価・換算差額等合計	1,286,793	67,051
少数株主持分	—	7,698
純資産合計	17,416,207	15,649,124
負債純資産合計	53,097,638	50,152,869

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	7,438,495	7,493,527
売上原価	5,314,867	5,410,654
売上総利益	2,123,628	2,082,872
販売費及び一般管理費	760,826	743,196
営業利益	1,362,802	1,339,676
営業外収益		
受取利息	7,532	1,844
受取配当金	72,468	63,436
その他	38,212	18,912
営業外収益合計	118,213	84,193
営業外費用		
支払利息	45,277	47,176
その他	407	373
営業外費用合計	45,684	47,549
経常利益	1,435,330	1,376,320
特別利益		
固定資産売却益	3,549	243
子会社清算益	—	5,434
特別利益合計	3,549	5,677
特別損失		
固定資産除却損	67,576	139,350
固定資産売却損	135	—
投資有価証券評価損	—	245
特別損失合計	67,711	139,595
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益	1,371,168	1,242,402
匿名組合損益分配額	45,480	—
税金等調整前四半期純利益	1,325,688	1,242,402
法人税、住民税及び事業税	514,629	478,922
法人税等調整額	△18,942	1,845
法人税等合計	495,687	480,767
少数株主利益	112	—
四半期純利益	829,888	761,635

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,325,688	1,242,402
減価償却費	850,999	842,218
固定資産売却損益(△は益)	△3,414	△243
固定資産除却損	22,456	33,461
投資有価証券評価損益(△は益)	—	245
子会社清算損益(△は益)	—	△5,434
貸倒引当金の増減額(△は減少)	215	△550
賞与引当金の増減額(△は減少)	△439	△4,302
退職給付引当金の増減額(△は減少)	37,932	1,295
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△31,137	9,548
受取利息及び受取配当金	△80,001	△65,281
支払利息	45,277	47,176
売上債権の増減額(△は増加)	△551,739	505,685
たな卸資産の増減額(△は増加)	△5,498	29,091
その他の流動資産の増減額(△は増加)	6,001	185,778
仕入債務の増減額(△は減少)	△85,128	△121,672
長期預り金の増減額(△は減少)	△201,141	△125,998
匿名組合預り金の増減額(△は減少)	△151,310	—
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△10,812	177,589
小計	1,167,948	2,751,010
利息及び配当金の受取額	80,001	65,281
利息の支払額	△45,581	△46,303
法人税等の支払額	△367,494	△374,831
営業活動によるキャッシュ・フロー	834,874	2,395,157
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△10,100	△29,890
固定資産の取得による支出	△936,780	△399,623
固定資産の売却による収入	5,377	31,744
子会社の清算による収入	—	11,434
その他	△30,423	△27,009
投資活動によるキャッシュ・フロー	△971,926	△413,345
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△547,600	△547,600
リース債務の返済による支出	—	△3,804
自己株式の取得による支出	△5,629	△1,756
自己株式の売却による収入	875	650
配当金の支払額	△202,555	△199,597
財務活動によるキャッシュ・フロー	△754,910	△752,108
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△891,962	1,229,703
現金及び現金同等物の期首残高	6,485,626	3,989,499
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△165,101
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,593,664	5,054,101

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	総合レジャー 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	建設事業 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	6,443,743	736,639	258,113	7,438,495	—	7,438,495
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,595	900	486,846	494,341	(494,341)	—
計	6,450,338	737,539	744,959	7,932,837	(494,341)	7,438,495
営業利益	1,530,289	464,619	47,155	2,042,064	(679,262)	1,362,802

(注) 1 事業区分は日本標準産業分類を参考にし、各事業の営業内容の類似性により区分しております。

2 各事業の主な内容

- (1) 総合レジャー事業 競技場、ゴルフ場、遊園地等の運営
- (2) 不動産事業 不動産の売買、賃貸
- (3) 建設事業 建設業

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	総合レジャー 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	建設事業 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	6,487,363	750,225	255,938	7,493,527	—	7,493,527
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,095	900	484,053	491,048	(491,048)	—
計	6,493,458	751,125	739,992	7,984,575	(491,048)	7,493,527
営業利益	1,522,739	439,371	35,041	1,997,153	(657,477)	1,339,676

(注) 1 事業区分は日本標準産業分類を参考にし、各事業の営業内容の類似性により区分しております。

2 各事業の主な内容

- (1) 総合レジャー事業 競技場、ゴルフ場、遊園地等の運営
- (2) 不動産事業 不動産の売買、賃貸
- (3) 建設事業 建設業

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。